

## 国際都市つくばを考える懇話会 第1回会議議事録

I 日 時 平成28年2月29日（月）午後1時30分から午後3時15分まで

II 場 所 つくば市役所6階第2委員会室

III 出席者 石濱 光輝，岩間 文人，大島 慎子，金 ヨンヒ，  
（敬称略）清瀬 一浩（小林 仁 代理），栗原 正治（新井 隆男 代理），  
クロフォード・シェイニー，小玉 喜三郎，齊藤 悠介，  
田村 実枝子，塚本 洋二，布浦 万代，不破 正宏，  
星名 大介，マリニャック・ブノワ，山口 拓 以上16名  
〈事務局〉企画・国際課長，課長補佐，係長，主査，主任

### IV 内容

#### 1 開会

#### 2 座長及び副座長選出

座長には小玉委員，副座長には岩間委員を選出

#### 3 議事

##### (1) 懇話会設置要項について

- 事務局 資料のとおり説明した  
質疑なし

##### (2) 今後のスケジュールについて

- 事務局 資料のとおり説明した  
質疑なし

##### (3) つくば市国際化基本指針の見直しについて

- 事務局 資料に基づき1から6まで説明した

##### (4) 意見交換

※ 会議時間の関係で，資料の7にある新たな基本指針の体系及び案  
を検討する前に，ここまでの説明に対する質疑を含め，委員それぞれ

れの立場から広く意見を伺うこととなった。

○ 委員

基本指針を見直すに当たり、グローバル MICE 誘致や投資の呼び込みはどこの都市でもやっている。もちろん入れるべきだとは思いますが、つくば市の特徴としては何なのか。

つくば市はホテルの状況が非常に悪いので、グローバル MICE の誘致は物理的にも大変。

新たな要素は「住み続けたい 住んでみたいまち」であるが、国際交流は定住を目指したものではなく交流人口の増大を視野にいれている。また、国内外から様々な投資の呼び込みで産業を起こす、その一方で、市内企業の海外進出というのは企画の幅が広すぎるのではないか。

さらに、インバウンドを呼び込む、ということはどこ都市もやっている。具体的に何をするのか、という点では非常に難しいのではないか。これも案として出さなければならないのは分かるが、全方位的で特徴がないという感想を持った。

新たな指針では具体的な提案でわかりやすい文章にすればよいと思う。

○ 座長

私も確認したいが、新たな基本指針は産業振興や観光、シティプロモーションといった活動など、ひとつの部署ということだけでなく、あらゆる関連分野が含まれているという理解でよいか。

○ 事務局

そうです。

○ 委員

前回この施策に携わった者として、前回は抽象的な部分もあったが、今回示された個別施策で、これから具体的に示される流れが、前回の

反省を含め、いい方向に体系付けられていくのかな、と思います。

○ 委員

市で情報提供の多言語化を進めている、ということだが何言語か。

○ 事務局

2ヶ月1回発行している外国語広報誌は英語、中国語、韓国語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語の6言語である。

HP においては外国人が必要と思われる情報をやさしい日本語、英語、中国語の3言語によって独自に展開している。

○ 委員

最近増えているインドネシア語やベトナム語への対応はいかがか。

○ 事務局

つくばの特徴として、在住外国人約8,000人のうち約4,000人は研究者であるか学生であり、だいたいは英語を話すことを前提にこのような言語になっている。

○ 委員

例えば、交流協会団体や中国、韓国等の団体が、つくばで色々やろうとするときに、市に協力してくださいと言うと、制度がないからできません、といわれることがある。新たな指針にそれらができるように書くことで、市がそれらの団体を積極的に支援するような体制になるのか。

○ 座長

この指針は、国際関係者を対象としていると思うが、市民も見るという前提か。

○ 事務局

市民も見るとを前提としている。

○ 委員

現在の基本指針には全部ルビをふってあるが、読者は誰なのかと思  
った。たぶん外国人が日本語を読めないからだと思うが、使われてい  
る用語は難しいので読めても意味は分からないかもしれない。それぐ  
らいなら英語版を作ったほうがいいのではないか。

○ 委員

この懇話会で、英語や他の言語での相談を受ける場所を作ってほし  
いといった具体的な意見を言った場合、基本指針にどのように反映さ  
れるのか。例えば、市の職員（スタッフ）には外国人の相談員がいた  
方がいいのではないか、という意見が全体で出た場合、指針にどのよ  
うに反映されるのか。新しい基本指針は、具体的な案を出して使える  
ものにしたい。

市の体制として、国際交流協会を「積極的に支援する」等、力のあ  
る言葉を使って、市が簡単に動けるようにしたい。

○ 委員

予算は国も市も決まっていて、すべてを網羅することはできない。  
これまでの蓄積された声を集めて、つくば市の方向性の中で優先順位  
が高いものとの連動性を図りながら検討した方がよい。

パブリックコメントを早めにとって検討しないと、できあがったこ  
とに対してパブリックコメントを取ってもあまり機能しないことが考  
えられる。

○ 委員

10 年程前に教育委員会と小中学校とで教育の国際化についての授  
業を実施したことがある。外国から来た子どもたちをどういうふうに  
受け入れるか、どういうふうに広報活動をしていくか、ということに  
ついて、教育委員会と小中学校が連携して進むべき方向について話し  
合いを進めたことがある。

どういうふうを受け入れるか、ということもある。受入れについても具体的にどういう方策を取っていけばいいか課題である。

グローバルな人材の育成も進めているが、いろんな機関と連携を深めていけるかということも課題になっている。

○ 委員

私の世代では帰国子女の受入れは公立で対応していないので、東京では私立が対応した。公立学校で帰国子女や外国の子女を受け入れることは、つくばでこそできるような気がする。

ただし、この土地でバカロレア教育を行うと、筑波大のような国立大は難関であり、学生は上智、ICU とか海外の大学に行ってしまう可能性がある。エール大学等も日本やアジアで留学生募集のプロモーションを行う時代である。筑波大学が A0 入試等で対応する策を講じないと、高校まで国際教育を行っても他の地域に進路を見出す若者が多くなる危険性もある。

○ 委員

小中学校での外国から来た子どもたちへの対応は、話は出ているが、高校では公立でやっているところは県内ではすごく少ない。外国人の方のつくばでの公立高校進学が進められるといい、と県に言っていたでもいいかな。

○ 委員

国際化という言い方とグローバルという言い方でそれぞれ意味を違えて使っているのか、意識しないで使っているのか。

今年度、県では「いばらきグローバル化推進計画」を策定したが、有識者で構成する策定会議において、グローバル化と国際化は違うという議論をした。すなわち、「国際化」を英訳すると「インターナショナルリゼーション」で、国と国との間の関係を強調するもの。一方で、

グローバリゼーションは、「グローブ」すなわち地球が語源であり、地球全体の中での一市民という意味合いが強い。今の時代に合っているのは、地球全体として物事を見る、グローバル化ということで意見が一致し、新計画でも原則「グローバル化」という言葉を使用している。どちらの用語を使うか、という統一がされてもよい。

○ 委員

もう少しオリンピックを取り上げた方がよい。成田よりも羽田の方が大きくなると聞いた。研究者もだんだん増えてきているが、地元に触れることがほとんどない。つくばは観光客にとっては目的がない。筑波山があるが、駅がもうひとつできたらいいなと思う。もっと観光客がつくばに来られるようになるとよい。

○ 座長

今後の5年というならオリンピックを視野に入れて、国際交流人口を増やす、という政策が重要だということですね。

オ その他

○ 事務局

次回の日程調整について、各委員の予定を把握し、座長と相談の上決定する旨を説明。

4 閉式